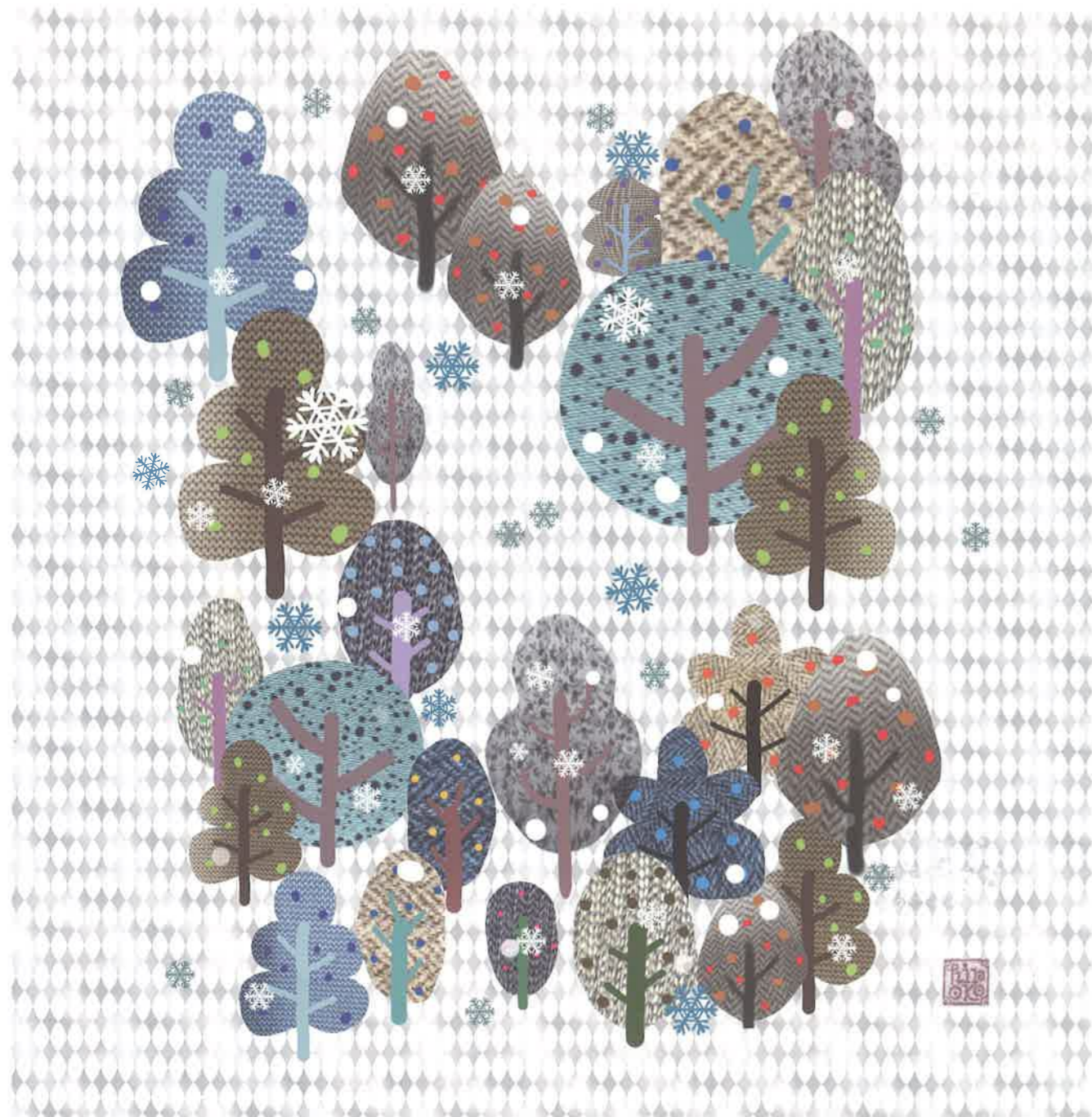




「自然や環境」のことに触れなくなったり、  
ライフスタイルを考えたりするヒントが  
この「エイ・エイ」の中に入っていますヨ。



CONTENTS

- ◆あまピヨ「木の実と仲間探しの旅」vol.7  
「ちょっと伝えたい『竹』のこと」
- ◆情報交流コーナー：あま・あま・ポンポン  
「はじめての中央緑地」
- ◆尼崎物語vol.9  
「白髪一雄のあまがさき」
- ◆イタリア留学記 vol.3  
「道に迷って楽しむ。イタリアの小さな街、ルッカ」
- ◆What's「尼崎21世紀の森づくり？」

「ei,ei」  
Aa  
「環境とライフスタイルを考えるフリーマガジン」2021年10月1日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.amashin.net/>

## 「あましん」環境活動 NEWS

2021年6月12日(土)と7月10日(土)に「あましん緑のプロジェクト」の活動として、尼崎の森中央緑地「あましん活動の森」において除草間伐活動を行いました。暑い中での作業でしたが、日頃から森づくりでご協力いただいているアマフォレストの会、尼崎の森中央緑地パークセンターの皆さんと一緒に汗を流しました。

今回除草間伐した場所は2011年に植樹したエリアで、10年前に植樹した苗木が今では背丈の2倍を越えるまでに成長しており、着実に森が育っていることが実感できました。また、植樹エリアがきれいになったことで、森の木々たちがこれからも元気に育つことを願っています。今後も定期的に除草間伐活動を行う予定であり、当金庫はこれからも森の育成に積極的に活動してまいります。

### 「あましん活動の森」 除草間伐活動



100年分の感謝を胸に、これからも  
地域のために貢献してまいります。

私たち尼崎信用金庫は、おかげさまで  
2021年6月6日に創業100周年を迎えました。

 **尼崎信用金庫**  
AMASHIN  
<https://www.amashin.co.jp>

もっとあましん  
ずっとあましん  
**100th**

「尼崎21世紀の森づくり」を  
応援しています。



あましん 検索



vol.7

「厄崎21世紀の森」で生まれた「あまびヨ」が森を出て厄崎の森の仲間を紹介するよ!

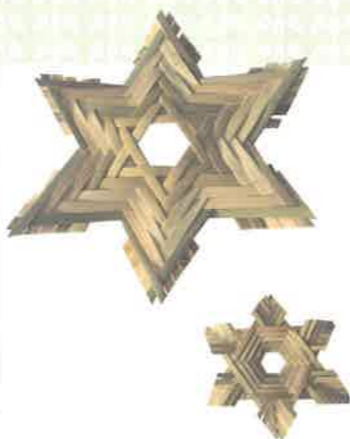
あまびヨ「木の実と仲間探しの旅」

# ちよつと伝えたい「竹」のこと

突然ですが「竹」といえば何を思い浮かべますか?おいしい筍料理でしょうか。幼いころ聞いた「竹取物語」でお爺さんがかぐや姫と出会う竹やぶのシーンでしょうか。

また、写真に掲載したように竹の使い方は様々あり、端材も余すことなく再利用でき、使い方も自由。切ったり、割ったり、穴を開けたり、竹の扱い方と道具の使い方ひとつをとっても楽しいのです。竹馬や竹鉄砲で遊んだ方もいるでしょう。便利な暮らしへと変化し、日常生活において「竹」は身近な存在でなくなったかもしれません。

今回は竹の機能性や温かみとその先にある暮らしについての魅力をお伝えできればと思います!



竹細工/竹ひごを編んでつくる。マダケの皮を剥いで竹ひごをつくるのが一苦労。物をいれたり、かぶせたり、敷いたり、そのまま飾ったり。



SDGsガーデン/花みどりフェア開催時に淡路島明石海峡公園でSDGsをテーマにガーデンを施工。竹を主な材料にして人が集う空間をつくり出しました。

風車/部品もすべて竹製。風を可視化させ、自然との一体を感じさせます。



アルコールスタンド/モウソウチク、マダケ、ヤダケなど様々な種類の竹を用いて作製。コロナ対応!?

## 「身近」から「問題」へ

昔は建材や籠、玩具、皮でにぎりを包むなど様々な特性を活かして生活の隅々に竹が使われていたようです。しかしプラスチックの台頭により、竹が使われなくなっていきました。筒も輸入に頼るようになり、高齢化も拍車をかけ、竹林の管理は手つかずとなってしまいました。竹は雑木林にも地下茎で拡がり、高さも高く太陽の光を奪って木々を枯らして竹林にしてしまいます。雑木林が竹林になることで、鳥類や昆虫類など様々な生物の住処が奪われたり、管理放棄されると急斜面の場合は崖崩れの危険性を



竹ドーム/畑に置いて野菜を這わせています。グリーンドームになるかも!?

大人が入っても遊べます。布を張ったらテントになります。



## 竹の可能性

高めます。このように、淡路島を含め里山が残る地域では、生活必需品として「身近」だった竹が放置され拡大したことで、生物の暮らしを脅かす「問題」とされるようになりました。

一方で竹を資源として活かそうと様々な取り組みもされています。竹の種類によって使い方も異なりますが、粉状にして雑草除けや土質を良くする「竹パウダー」や粗く砕いて燃料に使える「竹チップ」、竹の形状と特性を活かした「竹細工・工作」、殺菌消臭作用を活かした



プラスチックゴミでキーホルダー/前号で紹介されたキーホルダーのフレームとして竹を使用しました。



ブランコ/プレーパークにも竹が使われます。



流しそうめん/竹を半分に割って節をとって組み立て、子どもでも簡単に作業ができて楽しい。作業してから食べるそうめんは別格の美味しさ。竹は涼に合います。

## 竹の魅力とは

竹細工をはじめとした竹製品は機能的であり繊細で涼し気な雰囲気がありますが、使ってみると感じる懐かしさや、時を経て移り変わる竹皮の色の変化など様々な魅力を持ち合わせており、飽きさせず愛着を抱くものばかりです。良いものをより長く大切に使うことができれば、ゴミを減らすこととはもちろん、温かみのある生活に繋がられるのではないのでしょうか。また、写真に掲載したように竹の使い方は様々あり、端材も余すことなく再利用でき、使い方も自由。切ったり、割ったり、穴を開けたり、竹の扱い方と道具の使い方ひとつをとっても楽しいのです。竹を大量に消費することは難しくても、生活の中に自然素材を取り入れることのひとつとして「竹」が再び見直され、利用されることで暮らしも自然も豊かになればと思っています。

「入り口」から「出口」までを経験する中で大量消費の難しさも感じるようになりました。伐採には大変な労力がかかり、斜面地や密な竹林は人が入るだけでも注意が必要なほどです。竹の可能性がより見出され、多方面からの支援が広がることで竹林管理が円滑に進むことが理想ではないかと思っています。



【尼崎物語】未来と過去をつなぐ旅

## vol.9 白髪一雄のあまがさき



昭和29年頃の木市呉服店 出典：尼崎市商工名鑑

世界的に有名な抽象画家、白髪一雄は尼崎で生まれました。私は、彼が所属していた前衛グループ「具体美術協会」に興味があったこともあって、展覧会や白髪一雄記念室を度々訪れ、なんとなく身近に感じていたのですが、彼が阪神尼崎駅の近くで育ち、生涯尼崎で暮らしたことは知りませんでした。そこで記念室でいたただいた、ゆかりの地のマップを片手に阪神尼崎駅周辺を歩いてみました。

戦後、今の中央商店街で再開した木市呉服店の二階に、白髪のアトリエと住居があり、そこで大作の多くが描かれました。1982年に閉店し今は別店舗になっていますが、アトリエがあった通りからは尼崎えびす神社の大鳥居も見えます。その建設発起人には白髪の父の名もあり、街の賑わいの再建に白髪家は尽力したようです。

一方で、寺町でもひととき大きな本興寺には、白髪が寄進した大作があり、毎年11月3日に公開されるそう。1420年に創建されたこの寺院は様々な歴史の舞台になり、貴重な美術工芸品を多く所蔵、戦国時代から江戸時代初頭に建てられた開山堂・三光堂・方丈が重要文化財になっています。訪れたのはとても暑い日でしたが、気持ちやすっと涼しくなる空気が流れていて、本当に美しい空間でした。ここでも、蝋燭台や灯籠に白髪の名が残り、一家



美しい本興寺

南には運河と魚市場、東には当時の尼崎駅や市役所、西にはだんじり祭りや有名な貴布禰神社と、大変賑わいある街で幼少期を過ごしました。



白髪一雄記念室

今回参考にした「ボクの尼崎マップ」はウェブサイトでダウンロードでき、バーチャルツアーも公開されています。また、彼の名を冠した白髪一雄現代美術賞の第一回募集も始まっています。尼崎を愛した白髪の遺産は、ますます街を豊かにしてくれそうです。

文・写真 横山 知代子 / ご協力 辻川 敦氏(尼崎市立歴史博物館地域研究史料室)

【尼崎21世紀の森：情報・交流コーナー】

# あまあまポン

このページでは「尼崎21世紀の森づくり」の活動の様子をお知らせします。



## 初めての中央緑地

100年かけて森をつくる「尼崎21世紀の森」。今回はそんな森づくりに興味を持った大学生が尼崎の森中央緑地に初めて訪れた時の感想をレポートします。

### 尼崎の森中央緑地に初めて来訪

尼崎市の臨海部、国道43号線以南の約1000haの地域が進められている「尼崎21世紀の森」。そして、その中心に位置する尼崎の森中央緑地ですが、尼崎市民である私は今まで訪れる機会がありませんでした。しかし、その森づくりに興味を引かれ、定期的に開催されている植樹活動に参加してみました。

### 野の花Laboに参加

今回参加したのは、「野の花Labo」という、今年の4月から始まった、中央緑地の大芝生広場や森づくり活動エリア内で野草を植栽する活動です。今回は秋の七草の中から、カワラナデシコ、オミナエシ、キキョウの植栽を行いました。朝9時45分開始、まずはパークセンター

内で今回植栽する野草についてのお話や植栽方法をレクチャーしてもらい、植栽を行う大芝生広場に移動します。初めて見る大芝生広場の迫力は圧倒的で、尼崎にこんなにもきれいな空間が広がっていることに感動します。

### 植栽体験

活動場所に到着し、いよいよ植栽開始。参加者は20名程度、そのほとんどが「アマフォレストの会」の方々ですが、親子で参加するなど、森づくり活動に初めて参加する方もいました。経験のない私は緊張しながらの参加でしたが、思っていたよりも簡単な作業であること、また植樹経験のある方々が優しく教えて下さったことで、気づけば夢中になって植えていました。小学生くらいの子どもたちも楽しそうに植えていましたが、途中から昆虫探しに夢中になっていく姿はとても微笑ましいです。

活動を通して、野草の植栽なので体力や経験に関わらず参加しやすく、親子連れの方や初心者の方も楽しめる内容でした。この美しい大芝生広場の景観の一部を作れたという感動を味わうことができました。

### 大芝生広場の様子

活動終了後、お昼頃になり、大芝生広場ではテントを持ち込んで休憩する人、ボール遊びをする人、虫取りをする人など、多くの人が利用していることに驚きました。

尼崎市の臨海部にこんなにも美しい広場を持つ公園があること、また市民の手によって作られ、多くの市民に愛され利用されているということにとっても感動した。



植栽前の様子。目印があり植える場所がわかりやすい。



植栽後の様子。自分たちで植えたので達成感を感じられる。



大芝生広場の様子。昼頃になりテントが多く賑わいがある。



パークセンターの屋上からの景色。大芝生広場や森を見渡すことができる。

文・写真 石田 麟(大阪府立大学生命環境科学域緑地環境科学類)

